

この度は、統合開発環境 CS+をご使用いただきまして、誠にありがとうございます。

この添付資料では、本製品をお使いいただく上での制限事項および注意事項等を記載しております。ご使用の前に、必ずお読みくださいますようお願い申し上げます。

目次

第 1 章	対象デバイスについて	2
第 2 章	アンインストール時の選択キーワード	3
第 3 章	変更点	4
3.1	MISRA-C:2012 ルールによるソースチェック機能【professional】	4
3.2	最適化リンケージエディタ・オプション-map/-list の仕様変更	4
3.3	最適化リンケージエディタ・オプション-subcommand の変更	4
3.4	ライセンスの認証方式	5
3.5	最適化の強化	5
3.6	その他の改善点	8
第 4 章	注意事項	9
4.1	W0523041 メッセージが出力される場合の注意事項 [C/C++コンパイラ]	9
4.2	MVTC,POPC 命令を使用する場合の注意事項 [アセンブラ]	9
4.3	delete オプションをリンク時に指定する場合の注意事項 [最適化リンケージエディタ]	9
第 5 章	制限事項	10
5.1	統合環境 CS+のヘルプ コンパイラ等のオプションの参照について	10
5.2	C++言語(EC++含む)で math.h の一部関数(frexp,ldexp,scalbn および remquo)を使用する場合の制限事項	10
5.3	PIC/PID 機能ご利用に関する制限事項 (pic および pid オプション)	12
5.4	以下のオプションを廃止しました【C/C++コンパイラ】	12
5.5	C/C++ソースレベルデバッグに関する注意事項【C/C++コンパイラ】	12
5.6	0xffffffff 番地を含むセクションを記述する場合の注意事項【アセンブラ】	12
5.7	-form と-output オプションを同時に使用する場合の注意事項【リンカ】	13
5.8	_builtin から始まる関数名を使用する場合の注意事項【C/C++コンパイラ】	13
5.9	save_acc が有効な#pragma interrupt 指定された関数が仮引数を持つ場合の注意事項【C/C++コンパイラ】	13
第 6 章	添付標準ライブラリについて	14
6.1	添付ライブラリ一覧	14
6.2	ライブラリ指定の方法	15

第1章 対象デバイスについて

CC-RX がサポートする対象デバイスに関しては、WEB サイトに掲載しています。

こちらをご覧ください。

CS+製品ページ：

<http://www.renesas.com/cs+>

第2章 アンインストール時の選択キーワード

本製品をアンインストールする場合は、2つの方法があります。

- ・ 統合アンインストーラを使用する(CS+自体をアンインストールする)
- ・ 個別にアンインストールする(本製品のみをアンインストールする)

個別にアンインストールを行なう場合、コントロールパネルの

- ・ 「プログラムと機能」

から、「CS+ CC-RX V2.06.00」を選択してください。

第3章 変更点

本章では、CC-RX のV2.05.00からV2.06.00の変更点について説明します。

以降、professional版のライセンス登録時のみ使用できる機能は【professional】と明記します。

3.1 MISRA-C:2012ルールによるソースチェック機能【professional】

MISRA-C:2012ルールによりソースチェックを行う-misra2012オプションの引数に、以下の番号を指定できるようにしました。

2.2、3.2、5.1、5.6、5.7、5.8、5.9、8.3、8.9、8.14、9.1、9.4、9.5、12.2、17.6、18.7
21.1、21.2、21.3、21.4、21.5、21.6、21.7、21.8、21.9、21.10、21.11、21.12

3.2 最適化リンケージエディタ・オプション-map/-listの仕様変更

-mapオプションを指定した場合、セクションのアドレスが使用可能なアドレス範囲を超えた場合でも、可能な限りエラーとせず、外部シンボル割り付け情報ファイルを出力するようにしました。また、-mapオプションと同時に-listオプションを指定した場合には、リンク・マップ・ファイルにシンボル情報を出力するようにしました。

-mapオプションを指定して外部変数アクセス最適化を有効にしている場合、一度リンク処理まで実行して外部シンボル割り付け情報ファイルを生成したのち、このファイルを参照して再度コンパイルからリンクまでの処理を行うことで、ベースアドレス相対で効率よく外部変数をアクセスするコードを生成します。これまでは、一度目のリンク時にエラーになった場合、仮に外部シンボル割り付け情報ファイルを生成すれば外部変数アクセスの最適化が可能となり、その結果二度目のリンクに成功するようなケースであっても、一度目のリンクでビルド処理を終了し、外部シンボル割り付け情報ファイルも生成していませんでした。今回の仕様変更によりビルド処理を終了せず、外部変数アクセス最適化を適用できる可能性があります。

この改善は、リンクの最適化（未参照シンボル削除）へも効果があります。

3.3 最適化リンケージエディタ・オプション-subcommandの変更

サブコマンド・ファイル内で-subcommandオプションを指定できるようにしました。

3.4 ライセンスの認証方式

ライセンスの認証方式を変更しました。

なお、認証方式の変更に伴い、ライセンスマネージャはV2.00.00以降をインストールしてください。ライセンスマネージャV2.00.00以降がインストールされていない場合、CC-RX V2.06.00以上でビルドする際に下記のような警告を出力して、無償評価版として動作します。

```
W0511183:License manager is not installed
```

```
W0561014:License manager is not installed
```

3.5 最適化の強化

CC-RX V2.06.00 では、以下(a)~(c)の最適化強化を実施しました。

(a) 冗長な符号拡張を除去する最適化

冗長な符号拡張命令を生成しないよう改善しました。

```
<ソースコード例>
short func(short a) {
    return (a < 5) ? a : 5;
}
```

```
<V2.05.00 の生成コード>
_func:
    CMP #05H, R1
    MOV.L #00000005H, R14
    BGE L12
L11:
    MOV.W R1, R14
L12:
    MOV.W R14, R1
    RTS
```

```
<V2.06.00 の生成コード>
_func:
    CMP #05H, R1
    BLT L12
L11:
    MOV.L #00000005H, R1
L12:
    RTS
```

(b) MAX/MIN命令の活用

より多くの場合で MAX/MIN 命令を生成するよう改善しました。

<ソースコード例>

```
short func(short *in){
    int  i;
    short max;

    max = *in++;
    for (i = 1 ; i < 8 ; i++){
        if (max < *in) {
            max = *in;
        }
        in++;
    }
    return max;
}
```

<V2.05.00 の生成コード>

```
_func:
    MOV.W [R1+], R14
    MOV.L #00000007H, R15
L11:
    MOV.W [R1], R5
    MOV.W R14, R4
    CMP R5, R4
    BLT L13
L12:
    MOV.L R14, R5
L13:
    ADD #02H, R1
    SUB #01H, R15
    MOV.L R5, R14
    BNE L11
L14:
    MOV.W R5, R1
    RTS
```

<V2.06.00 の生成コード>

```
_func:
    MOV.W [R1+], R14
    MOV.L #00000007H, R15
L11:
    MOV.W R14, R14
    MAX [R1].W, R14
    ADD #02H, R1
    SUB #01H, R15
    BNE L11
L12:
    MOV.L R14, R1
    RTS
```

(c) 文字列操作命令の活用

より多くの場合で文字列操作命令 SMOVF/SUNTIL を生成するよう改善しました。

<ソースコード例>

```
// このソースプログラムをコンパイルするには -lang=c99 オプションが必要です。
void* func(void* restrict dest, const void* restrict src, unsigned short len) {
    unsigned short i;
    unsigned char* restrict d = dest;
    const unsigned char* restrict s = src;
    for (i = 0; i < len; i++) {
        d[i] = s[i];
    }
    return d;
}
```

<V2.05.00 の生成コード>

```
_func:
    MOV.L #00000000H, R14
    MOV.L R1, R15
L11:
    CMP R3, R14
    BEQ L13
L12:
    MOVU.B [R2+], R5
    ADD #01H, R14
    MOV.B R5, [R15+]
    BRA L11
L13:
    RTS
```

<V2.06.00 の生成コード>

```
_func:
    MOV.L R1, R14
    SMOVF
    MOV.L R14, R1
    RTS
```

3.6 その他の改善点

主に以下の改善を行いました。

(a) ビット操作命令の出力

CC-RX V2.05.00以前では、最適化レベルやソース・プログラムの記述内容によってコンパイラが自動的に判別してビット操作命令を出力していましたが、V2.06.00ではユーザーが制御できるようにしました。詳細な出力条件についてはユーザーズマニュアルをご参照ください。

(b) 次の注意事項を改修しました。

- 2回以上のループを含むプログラムに関する注意事項 (No. 39)
- 関数の引数をスタックで渡す際の注意事項 (No. 40)
- 配列要素、構造体メンバまたは共用体メンバへの値の更新が反映されない注意事項 (No.41)
- 値が1ずつ減少する演算式を含むループの注意事項 (No.42)

(c) -noconst_copy の適用対象の修正

-noconst_copy オプションを指定したとき、ローカル変数の初期値に対する定数伝播も行わなくなる問題を修正しました。

(d) 内部エラーの改善

ビルド時に内部エラーが発生する場合がありますでしたが、これを改善しました。

第4章 注意事項

本章では、CC-RX の注意事項について説明します。

4.1 W0523041メッセージが出力される場合の注意事項 [C/C++コンパイラ]

C 標準ヘッダをインクルードしたファイルを C++または EC++コンパイルしたとき、int_to_short オプションを指定すると W0523041 メッセージが出力されることがあります。この場合は動作には問題ありませんので無視してください。

【注意】

C++および EC++コンパイル時は、int_to_short オプションの指定は無効になります。

C と C++(EC++)との間で共通にアクセスするデータは、int 型ではなく long 型または short 型で宣言してください。

4.2 MVTC,POPC命令を使用する場合の注意事項 [アセンブラ]

アセンブリ言語において、MVTC,POPC 命令に対してプログラムカウンタ(PC)は指定できません。

アセンブラでの割り込み関数を記述する場合には、r1 レジスタの退避/復帰を行ってください。

4.3 deleteオプションをリンク時に指定する場合の注意事項 [最適化リンケージエディタ]

delete オプションで指定した関数シンボルが削除された場合、削除された関数定義の次の関数定義の関数名に対して、デバッグ時にエディタ上でブレークポイントを設定することができません。ラベルウィンドウからブレークポイントを設定するか、関数のプログラム行で指定してください。

第5章 制限事項

本章では、CC-RX の制限事項について説明します。

5.1 統合環境CS+のヘルプ コンパイラ等のオプションの参照について

CS+添付ヘルプから、CC-RXに含まれるC/C++コンパイラ(ccrx)、アセンブラ(asrx)、最適化リンケージエディタ(rlink)およびライブラリジェネレータ(lbgrx)のコマンドラインオプションを参照いただく場合は、RX(CC-RX環境)の、「コンパイラ編」以下の内容でご確認ください。

同様の内容は「ビルド編」にも記載されていますが、こちらはV2.02.00のものであるのでご注意ください。

5.2 C++言語(EC++含む)でmath.hの一部関数(frexp,ldexp,scalbn およびremquo)を使用する場合の制限事項

C++/EC++コンパイル時に、math.hの一部の関数(frexp,ldexp,scalbn,remquo)の実引数をint型にすると、実行時に無限ループとなるオブジェクトが生成されます。

発生条件:

次の条件(1)(2)を全て満たす場合が該当します。

- (1) C++ソース(拡張子が.cpp)または、-lang=cpp オプションが有効である。
- (2) math.h をインクルードして、以下の関数をそれぞれの条件で呼び出している。
 - (a) frexp(double, long *) の第2引数の値を (int *)型とする
ただし、第1引数が float 型で、-dbl_size=8 オプション指定時を除く
 - (b) ldexp(double, long) の第2引数の値を int 型とする
ただし、第1引数が float 型で、-dbl_size=8 オプション指定時を除く
 - (c) scalbn(double, long) の第2引数の値を int 型とする
ただし、第1引数が float 型で、-dbl_size=8 オプション指定時を除く
 - (d) remquo(double, double, long *) の第3引数の値を (int *)型とする
ただし、第1または第2引数が float 型で、-dbl_size=8 オプション指定時を除く

発生例:

```
[file.cpp]
// C++ソースとしてコンパイルした場合に無限ループになる例
#include <math.h>
double d1,d2;
int i;
void func(void)
{
    d2 = frexp(d1, &i);
}
```

[コマンドライン例]

```
ccrx -cpu=rx600 -output=src file.cpp
```

[file.src] ソース出力例

```

_func:
    ; ... (中略)
    BSR __$frexp_tm_2_f_FZ1ZPi_Q2_21_Real_type_tm_4_Z1Z5_Type ; frexp の代替関数を呼ぶ
    ; ... (中略)

__$frexp_tm_2_f_FZ1ZPi_Q2_21_Real_type_tm_4_Z1Z5_Type:
L11:
    BRA L11 ; 再帰呼び出しになってしまう

```

回避策:

次のいずれかの方法で回避できます。

- (1) -lang=c を指定し、C 言語としてコンパイルする。
- (2) 引数の int および int* を long および long* に変更する。
- (3) math.h の後に、使用する関数ごとに定義を追加する。

```

/* frexp 関数の場合 */
static inline double frexp(double x, int *y)
{ long v = *y; double d = frexp(x,&v); *y = v; return (d); }

/* ldexp 関数の場合 */
static inline double ldexp(double x, int y)
{ long v = y; double d = ldexp(x,v); return (d); }

/* scalbn 関数の場合 */
static inline double scalbn(double x, int y)
{ long v = y; double d = scalbn(x,v); return (d); }

/* remquo 関数の場合 */
static inline double remquo(double x, double y, int *z)
{ long v = *z; double d = remquo(x,y,&v); *z = v; return (d); }

```

回避策(2)の例

[file.cpp] の変更例

```

#include <math.h>
double d1,d2;
int i;
void func(void)
{
    long x = i; /* 一旦 long 型変数で受ける */
    d2 = frexp(d1, &x); /* long 型変数で呼び出し */
    i = x; /* i に値を設定 */
}

```

回避策(3)の例

[file.cpp] の変更例

```

#include <math.h>
/* 宣言を追加 */
static inline double frexp(double x, int *y)
{ long v = *y; double d = frexp(x,&v); *y = v; return (d); }
double d1,d2;
int i;
void func(void)
{
    d2 = frexp(d1, &i);
}

```

5.3 PIC/PID機能ご利用に関する制限事項 (picおよびpidオプション)

ライブラリジェネレータ lbgrx に pic または pid オプションを指定して、標準ライブラリを作成することができますが、その際に、次の警告が1回または複数回表示されます。

```
W0591301:"-pic" option ignored (pic オプションを指定した場合)
```

```
W0591301:"-pid" option ignored (pid オプションを指定した場合)
```

これらの警告は、EC++ライブラリに対して、pic, pid オプションが無効になるため出力されます。

5.4 以下のオプションを廃止しました【C/C++コンパイラ】

(a) -file_inline, -file_inline_path

指定しても警告を表示し無効となります。代替手段としては、ソース中に#includeを記述してください。C(C99含む)の場合は、同様の機能を持つmerge_filesも使用できます。

(b) -enable_register

指定しても無視されます。指定の有無による生成コードの変化はありません。

5.5 C/C++ソースレベルデバッグに関する注意事項【C/C++コンパイラ】

(1)-debugオプションを指定しても、次の行に対しては、デバッガでブレークポイントの設定やステップ実行で停止ができない場合があります。

- ・ グローバル変数の動的な初期化式(C++)
- ・ 次のような関数の先頭行

```
#pragma inline_asm が指定されている関数。
```

```
ループ文(do文,while文など)から始まり、かつauto変数を持たない関数。
```

- ・ ループ(for文, while文,do文)の制御式と本体を1行で記述した場合の制御式および本体部分。

(2)共用体型かつレジスタ渡しである仮引数のメンバが、ウォッチウィンドウ等で誤った値が表示される場合があります。

5.6 0xffffffff番地を含むセクションを記述する場合の注意事項【アセンブラ】

アセンブリソース中に同じセクション名に対する.org 制御命令を含む.section 制御命令が複数あり、これらが互いに0xffffffff番地で重複している場合、アセンブル時に内部エラー(C0554098)が発生します。

例)

```
.section SS,ROMDATA
.org 0ffffffeh
.byte 1
.byte 2 ; 0xffffffff
.section SS,ROMDATA
.org 0fffffffh
.byte 3 ; ; 0xffffffff
.end
```

5.7 -formと-outputオプションを同時に使用する場合の注意事項【リンカ】

リンカ(rlink)に、-form=rel と-output=出力ファイル名を共に指定したとき、出力ファイル名の拡張子が無視され、常に.rel に置き換わります。

例) rlink -form=relocate -output=DefaultBuild¥lib_test.lib

出力ファイルを test.lib とすべきところが test.rel になります。

5.8 _builtinから始まる関数名を使用する場合の注意事項 【C/C++コンパイラ】

include ディレクトリ内の machine.h に記述のある _builtin から始まる関数名をソースコードで宣言した場合、内部エラーになることがあります。アンダーバー(_)から始まる名前は予約されていますので、お客様のソースコードには記述しないでください。

5.9 save_accが有効な#pragma interrupt指定された関数が仮引数を持つ 場合の注意事項【C/C++コンパイラ】

#pragma interrupt で指定された関数で、save_acc フラグが有効(-save_acc オプション指定時を含む)な場合、生成コードが R4 で渡される仮引数を正常に取得できない場合があります。

注意) #pragma interrupt で指定された関数に仮引数を定義することは、推奨しておりません。

第6章 添付標準ライブラリについて

本章では、RXファミリC/C++コンパイラ 添付標準ライブラリについて説明します。

本製品では、RX600用に標準ライブラリファイル(*.lib)を4種類添付しています。

添付の標準ライブラリファイルを使用することにより、ビルドに要する時間を短縮することができます。

6.1 添付ライブラリー一覧

本製品に添付される、標準ライブラリファイルの一覧を表 6.1 に示します。

【ご注意】

ライブラリで選択している「マイコンオプション」は、ご使用のコンパイラオプションと一致させる必要があります。いずれとも一致しない場合は、これらの標準ライブラリは使用できませんので、ご利用のコンパイラオプション(アセンブラオプション)をライブラリジェネレータに指定して、作成されるライブラリをご使用ください。

ライブラリ名	用途	最適化 ^{*2} オプション	マイコンオプション ^{*1 *2}		
			-endian	-cpu -rtti -exception -noexception	その他 ^{*3}
rx600lq.lib	RX600、速度優先 リトルエンディアン	-speed -goptimize	-endian=little	-cpu=rx600 -rtti=on -exception	-round=nearest
rx600ls.lib	RX600、サイズ優先 リトルエンディアン	-size -goptimize			-denormalize=off
rx600bq.lib	RX600、速度優先 ビッグエンディアン	-speed -goptimize	-endian=big		-dbl_size=4
rx600bs.lib	RX600、サイズ優先 ビッグエンディアン	-size -goptimize			-unsigned_char -unsigned_bitfield -bit_order=right -unpack -fint_register=0 -branch=24

表 6.1 ライブラリー一覧

*1 マイコンオプションは、ユーザーズマニュアルRXビルド編の「A.1.3 オプション」「(1)コンパイル・オプション」「マイコンオプション」を参照ください。

*2 これらのオプション選択は省略時設定と同じです。

6.2 ライブラリ指定の方法

添付の標準ライブラリファイルを使用する場合は、製品に含まれているライブラリファイルを、lib ディレクトリから任意のディレクトリにコピーしてください。

次に、最適化リンカージェネタの Library オプションにコピーしたライブラリファイルを指定して、リンクしてください。

すべての商標および登録商標は、それぞれの所有者に帰属します。

ご注意書き

1. 本資料に記載された回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報は、半導体製品の動作例、応用例を説明するものです。お客様の機器・システムの設計において、回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報を使用する場合には、お客様の責任において行ってください。これらの使用に起因して、お客様または第三者に生じた損害に関し、当社は、一切その責任を負いません。
2. 本資料に記載されている情報は、正確を期すため慎重に作成したのですが、誤りがないことを保証するものではありません。万一、本資料に記載されている情報の誤りに起因する損害がお客様に生じた場合においても、当社は、一切その責任を負いません。
3. 本資料に記載された製品データ、図、表、プログラム、アルゴリズム、応用回路例等の情報の使用に起因して発生した第三者の特許権、著作権その他の知的財産権に対する侵害に関し、当社は、何らの責任を負うものではありません。当社は、本資料に基づき当社または第三者の特許権、著作権その他の知的財産権を何ら許諾するものではありません。
4. 当社製品を改造、改変、複製等しないでください。かかる改造、改変、複製等により生じた損害に関し、当社は、一切その責任を負いません。
5. 当社は、当社製品の品質水準を「標準水準」および「高品質水準」に分類しており、各品質水準は、以下に示す用途に製品が使用されることを意図しております。
標準水準： コンピュータ、OA機器、通信機器、計測機器、AV機器、
家電、工作機械、パーソナル機器、産業用ロボット等
高品質水準： 輸送機器（自動車、電車、船舶等）、交通用信号機器、
防災・防犯装置、各種安全装置等
当社製品は、直接生命・身体に危害を及ぼす可能性のある機器・システム（生命維持装置、人体に埋め込み使用するもの等）、もしくは多大な物的損害を発生させるおそれのある機器・システム（原子力制御システム、軍事機器等）に使用されることを意図しておらず、使用することはできません。たとえ、意図しない用途に当社製品を使用したことによりお客様または第三者に損害が生じて、当社は一切その責任を負いません。なお、ご不明点がある場合は、当社営業にお問い合わせください。
6. 当社製品をご使用の際は、当社が指定する最大定格、動作電源電圧範囲、放熱特性、実装条件その他の保証範囲内でご使用ください。当社保証範囲を超えて当社製品をご使用された場合の故障および事故につきましては、当社は、一切その責任を負いません。
7. 当社は、当社製品の品質および信頼性の向上に努めていますが、半導体製品はある確率で故障が発生したり、使用条件によっては誤動作したりする場合があります。また、当社製品は耐放射線設計については行っておりません。当社製品の故障または誤動作が生じた場合も、人身事故、火災事故、社会的損害等を生じさせないよう、お客様の責任において、冗長設計、延焼対策設計、誤動作防止設計等の安全設計およびエージング処理等、お客様の機器・システムとしての出荷保証を行ってください。特に、マイコンソフトウェアは、単独での検証は困難なため、お客様の機器・システムとしての安全検証をお客様の責任で行ってください。
8. 当社製品の環境適合性等の詳細につきましては、製品個別に必ず当社営業窓口までお問合せください。ご使用に際しては、特定の物質の含有・使用を規制するRoHS指令等、適用される環境関連法令を十分調査のうえ、かかる法令に適合するようご使用ください。お客様がかかる法令を遵守しないことにより生じた損害に関し、当社は、一切その責任を負いません。
9. 本資料に記載されている当社製品および技術を国内外の法令および規則により製造・使用・販売を禁止されている機器・システムに使用することはできません。また、当社製品および技術を大量破壊兵器の開発等の目的、軍事利用の目的その他軍事用途に使用しないでください。当社製品または技術を輸出する場合は、「外国為替及び外国貿易法」その他輸出関連法令を遵守し、かかる法令の定めるところにより必要な手続を行ってください。
10. お客様の転売等により、本ご注意書き記載の諸条件に抵触して当社製品が使用され、その使用から損害が生じた場合、当社は何らの責任も負わず、お客様にご負担して頂きますのでご了承ください。
11. 本資料の全部または一部を当社の文書による事前の承諾を得ることなく転載または複製することを禁じます。

注1. 本資料において使用されている「当社」とは、ルネサス エレクトロニクス株式会社およびルネサス エレクトロニクス株式会社とその総株主の議決権の過半数を直接または間接に保有する会社をいいます。

注2. 本資料において使用されている「当社製品」とは、注1において定義された当社の開発、製造製品をいいます。



ルネサスエレクトロニクス株式会社

■営業お問合せ窓口

<http://www.renesas.com>

※営業お問合せ窓口の住所は変更になることがあります。最新情報につきましては、弊社ホームページをご覧ください。

ルネサス エレクトロニクス株式会社 〒135-0061 東京都江東区豊洲3-2-24（豊洲フォレシア）

■技術的なお問合せおよび資料のご請求は下記へどうぞ。
総合お問合せ窓口：<http://japan.renesas.com/contact/>